

# 目次 国語 Vol.1

## 読解編 第1部

1 文学的文章の読解

2 文学的文章 (1)

3 文学的文章 (2)

4 文学的文章 (3)

5 文学的文章 (4)

6 文学的文章 (5)

7 文学的文章 (6)

8 文学的文章 (7)

9 文学的文章 (8)

## 読解編 第2部

10 説明的文章の読解

11 説明的文章 (1)

12 説明的文章 (2)

13 説明的文章 (3)

14 説明的文章 (4)

15 説明的文章 (5)

16 説明的文章 (6)

17 説明的文章 (7)

18 説明的文章 (8)

## 読解編 第3部

19 韻文の読解

20 韻文 (1) (詩①)

21 韻文 (2) (詩②)

22 韻文 (3) (詩③)

23 韻文 (4) (短歌・俳句)

## 読解編 第4部

24 古典の読解

25 古典 (1)

26 古典 (2)

27 古典 (3)

102 96 90 84 78 70 62 54 46 39 32 26 19 12 4

160 156 152 148 144 140 136 133 129 121 114 108

言語・知識事項編 第1部

28 文法の学習 (1) (文節相互の関係) …………… 164

29 文法 (1) …………… 166

30 文法の学習 (2) (文の成分) …………… 169

31 文法 (2) …………… 171

32 文法の学習 (3) (品詞の分類) …………… 174

33 文法 (3) …………… 176

言語・知識事項編 第2部

34 表現・記述の学習 …………… 179

35 表現・記述 (1) …………… 183

36 表現・記述 (2) …………… 187

言語・知識事項編 第3部

37 漢字・語句の学習 …………… 191

38 漢字・語句 (1) …………… 193

39 漢字・語句 (2) …………… 196

付録

1 用言活用表 …………… 199

2 助動詞活用表 (口語) …………… 200

# 文学的文章の読解

## 例題 I

◆ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

学習日 月 日



15 10 5



〈尾崎一雄「虫のいろいろ」より〉

45 40 35 30 25 20

□(1) **場面をつかむ** — 線①「大発見をした」とありますが、何を発見したのですか。本文中から五字で書き抜いて答えなさい。


□(2) **表現技法** — 線②「かれがほおにとまると」とありますが、はえの何を「かれ」と表す表現技法として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 直喩 ちよくゆ
- イ 隠喩 いんゆ
- ウ 擬人法 ぎじんぽう
- エ 声喩 せいゆ

--

□(3) **適語補充・細部をつかむ** ※ に入る最も適切なことばを、本文中から書き抜いて答えなさい。

--

□(4) **内容をつかむ・指示内容記述** — 線③「しいはしない」とありますが、「わたし」は何をしいないのですか。何にあたる内容を、「ほお」ということばを必ず用いて、「〜実験。」という形で、二十字以内（句読点も字数に数えます）で答えなさい。


□(5) **心情をつかむ** — 線④「それはそんなに重大なことなのか」とありますが、ここに表れている「わたし」の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア はえは同じ場所を三度も飛び回る。その忙しさがはえの大切なくせで

イ「わたし」ははえとのんびり遊んでいたが、家族が忙しいことに気づき、申し訳ないと思う気持ち。

ウ 小さなはえが、一つの習性をもって生きていることのすばらしさをもっとわかっていると思う気持ち。

エ 家族がだれも相手にしてくれないので、自分は大切にされていないのではと嘆き悲しむ気持ち。

オ はえの実験よりも、忙しい家事の方が大切であったことを認識し、反省している気持ち。

--

□(6) **細部をつかむ** — 線⑤「きみなんかにできるものか」とありますが、「わたし」がそう言った理由が具体的に表現されている場所を探し、その最初と最後の五字（句点は字数に数えません）を書き抜いて答えなさい。


□(7) **主題・心情をつかむ** — 線⑥「すこしふきげんになってきたのだ」とありますが、「わたし」がふきげんになってきた最大の理由として考えられることばを、「〜こと。」という形で、二十五字以内（句読点も字数に数えます）で答えなさい。


□(8) **段落構成をつかむ** 本文を内容の上から二つの部分に分ける場合、後半部分はどこから始まると考えられますか。後半部分の最初の段落の初めの六字を書き抜いて答えなさい。


(1) **場面をつかむ** 小説や随筆などの文学的文章を読解するためには、どのような場面が設定されているかを、まず正確につかむ必要があります。この

時のポイントは、①時間(いつ)、②場所(どこで)、③人(だれが)、④事柄(どうした)を、ヒントになることばから明確化することです。こうして、場面設定をつかんでから、細部の内容の検討に移っていくようにします。

この問題では、第一段落から、「わたし」が「日ざかり」であるにもかかわらずふとんをかぶって寝ていることがわかり、そこから一歩進んで、本文にはっきりそうと書かれてはいませんが、「わたし」は何かの病気のために家で療養している人ではないか、と想像されます。その「わたし」が、寝たままはえとたわむれている、という場面です。問題自体は、「わたし」の発見の内容ということなので、「どんな」発見かを明らかにするという方針で本文に当たればよいでしょう。「わたし」の発見の内容は、第二段落をみれば、はえとのたわむれから、はえが三度同じ場所から追い払われると、そのはえは(どんな場合でも、どのはえでも)同じ場所へは来なくなるといふことであることがわかります。あとは、このことからの、条件に合った言い換え表現を探せばよいこととなります。

(2) **表現技法** 文学的文章では、韻文と同様に、各種の表現技法が用いられています。とりわけ、**比喩**(たとえ)はよく用いられる技法ですから、その働きや区別ができるようにしておくことが大切です。ここでは、比喩について、その種類を次に挙げておきます。

**比喩**…ある物事を、他の物事にたとえて表す方法。

①直喩 「AはまるでBのようだ」のような形で、間接的に二つ

の物事を結びつけて、たとえる。

②隱喩

例 「天使のような笑顔」

「まるで」や「ようだ(な)」などのことばを用いず、「AはBだ」という形で、直接的に二つの物事を結びつけて、たとえる。

例 「黄金の左足」

③擬人法

人以外のものを人にたとえる。

例 「雨が私を追いかけて来た」

④声喩

物の状態や動作、音などをことばで表したものの擬態語・擬音語ともいう。

例 「こつこつ」「ねちねち」「バタン」

この問題では「はえ」が「かれ」と置き換えられていることから、どの比喩(たとえ)かを判断します。

(3) **適語補充・細部をつかむ**

「無言の返答」と「だが」の後の「忙しい」というのはどういうことなんだ、それはそんなに重大なことなのか、が手掛かりになります。これらのことばから、家族が無言の返答をしなければならぬような状態を表すことばが空所に入りそうだと推定できましょう。

(4) **内容をつかむ・指示内容記述**

この問題では、「しいる」の意味が理解できていることが大前提になります。「しいる」は「強いる」と書き、「無理にやらせる、強制する」という意味で用いられることばです。まず語の意味を理解したあとで、「何」に当たるのが「そんな実験」であることを文脈から確認し、さらに「そんな」がどのような内容を指しているかをまとめる、という手順で考えてから、解答に取りかかるようにします。実験の内容は第二段落に書かれているので、指定語「ほお」を手掛かりに、条件に合わせてまとめるようにします。

(5) **心情をつかむ**

登場人物の心情・性格をつかむ問題は、小説などの読

解では、とりわけ大きな比重を占めています。登場人物の心情・性格は、場面設定と密接な関係があるので、部分的な読みをせず、全体との関連で考えるようにします。

この問題では、まず「それはそんなに重大なことなのか」の「か」に着目します。「か」は、ふつう疑問の気持ちを表すことばですが、ここでは、むしろ文脈から「それはそんなに重大なことではあるまい」という反語的な意味でとらえるほうが適当でしょう。また、——線部の直前の表現「忙しいというのはどういうことなんだ」から「わたし」が家族の無関心さに対して、内心腹立たしく思っていることも想像がつかます。これらの根拠から、はえに対する感動・関心を家族にも共有してもらいたいという気持ち、などと「わたし」の心情はまとめられることになります。

- (6) **細部をつかむ** 細部は、心情表現や場面設定、主題などをすべてふまえたうえで、それらに矛盾することのないように読み取ることが大切です。「わたし」の言葉は、この場面だけ見れば、深いしわによってはえがつかまえられたという、長男に対する優越感を表していると読み取れます。そして、この優越感は、深いしわを持たない長男の若さを浮き彫りにすることになります。つまり、長男はまだ若いため、しわなどないからこそ、「わたし」の優越感も生じるというわけです。こうして、長男の若さが書かれている部分で、「わたし」の言葉が出てくる理由として適切と考えられることとなります。
- (7) **主題・心情をつかむ** 主題（テーマ）は、説明的文章での要旨に相当するもので、作者・筆者が作品を通して訴えている「ねらい」や「中心となる考え・心情・事柄」のことです。文学的文章の読解は、最終的には主題の読解に行き着くので、主題がさまざまな角度から問題にされるのは当然です。読解において重要な位置を占める主題の読み取り方をまとめると次のようになります。

- I 全体のあらすじをとらえる。
- II 登場人物の心情、情景を読み取る。
- III タイトルから主題を想像する。
- IV 話題に着目し、作者・筆者が言おうとしていることを考える。
- V 最もスペースがさがされている話題が何かを読み取る。

本文では、「わたし」の深いしわは、長男やその他の家族たちの若さに比べて、年がいつていることを表しています。「わたし」の老いの深まりが、若く健康的な家族との対比の中で、鮮やかに浮かび上がってきます。深まる「古い」を生きたる「わたし」の日常が、主題として読み取れます。したがって、問題解答のポイントは、最初は優越感を感じていた「わたし」が、しわの深さは老いの深まりの証拠ということに思いがおよび、ふきげんになってきたという点にあることとなります。しわの深さと老いの関係が、条件に合う形でまとめられればよいでしょう。

- (8) **段落構成をつかむ** 説明的文章と違い、場面・情景の変化に対応して段落が分けられることが多いため、場面を分ける場合の着眼点は、①時間（時代・時刻・季節）、②場所、③登場人物、④話題、などの変化や、⑤接続語などになります。

この問題では、それぞれの段落の初めのことばに着目すると、「それからまた」が、④や⑤の条件を満たし、前後で分けられることがわかります。

例題Ⅱ

◆ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



20 15 10 5



40 35 30 25

(注)

朽ちて＝くさって。

衝撃＝激しくつき当たること。

はらんで＝内に持つて。

伐採＝木や竹を切り取ること。

搬出＝大きなものを運び出すこと。

模して＝まねて作って。

精妙＝細かい所までよくできている様子。

〈高田 宏〉「生命 はぐくむもの」より

□(1) **語の係り受け**——線①「なにも」はどのことばに係っていますか。

適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 数多くの
- イ 森を
- ウ せっせと
- エ 歩きまわる
- オ ない

□(2) **細部をつかむ**——線②「倒木」の森の中での様子について述べている部分を探し、その初めと終わりの四字（句読点も字数に数えます）を書き抜いて答えなさい。


□(3) **適語補充** ①に入る適切なことばを、本文中から二字で書き抜いて答えなさい。


□(4) **意味をとらえる**——線③「そういう生と死」とはどういうことですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 倒れた木が土のようになってもお生き続けていること。
- イ 倒木の後に、それよりもっと大きな木が育つこと。
- ウ 倒木を利用して他の種類の植物が育っていくこと。
- エ 古くなった倒木から新しい生命が育ってきていること。
- オ 生命を終えた倒木が静かに土に返っていくこと。

□(5) **細部をつかむ**——線④「ほんとうの森」にそなわっている働きとして筆者が考えているのは、どのようなことですか。同じ段落の中から二十五字以内で過不足なく探し、その最初と最後の五字を書き抜いて答えなさい。


□(6) **主題をつかむ**——線⑤「自然の森に流れているあの豊かな時間」とはどういうことをいっているのですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 自然の森では、倒れたものが他の動物や植物の犠牲ぎせいになって生命を持続させているということ。

イ 自然の森では倒木が次の世代を育てているので、生命は絶えることなく続いているということ。

ウ 自然の森では、どんなに長い間生き続けたものも、やがては必ず土に返っていくということ。

エ 自然の森では一本の倒木が多くの動物や植物を育てるので、生命は豊かにふくらみ続けているということ。

□(7) **指示内容をつかむ**——線⑥「巨木のこういう死」とは違う、もう一つの「巨木の死」とはどういう死に方ですか。「数百年」ということばを必ず用いて、「く死に方」という形で、二十五字以内（句読点も字数に数えます）で答えなさい。


□(8) **段落内容をつかむ**——線⑦「生と死がさまざまなかたちを見せている」について述べているのはどの形式段落ですか。その組み合わせとして適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 段落④・⑤・⑦
- イ 段落④・⑥・⑦
- ウ 段落④・⑤・⑥
- エ 段落④・⑥・⑧
- オ 段落⑤・⑥・⑦

□(9) **キーワードをつかむ** ②に入る適切なことばを本文中から探し、五字以内で書き抜いて答えなさい。




(1) 語の係り受け 「なにも」は、ここでは、打ち消しの語を伴って、「取り立てて。どういうことが原因であるにしろ」の意のことば（副詞）。修飾語がどの語に係るかは、語の意味を考えて判断します。一定の係りかたをすることがには、例えば、次のようなものがあります。

- I たぶん・おそらく・きっと（「～だろう」と結びつく）
- II けっして（「ない」と結びつく）
- III たとえ（「～でも」と結びつく）
- IV よもや（「～まい・～ないだろう」と結びつく）
- V ぜひ・どうか（「～ください」と結びつく）
- VI なぜ・どうして（「～か・の」と結びつく）
- VII まるで（「～ようだ」と結びつく）

このようなことば（「呼应・陳述ちんじゆつの副詞」という）は、「なにも」と同じで、あとにそれぞれ決まったことばがくる性質を持っているので、その都度覚えるようにしましょう。

(2) 細部をつかむ 問題を解くためのポイントは、くり返し出てくることばをチェックすることです。「倒木」の森の中での様子について述べられている部分を探し出すために、まず「倒木」ということばが、直接であれば、指示語を用いてであれ、集中的に出てくる部分を探すという方針を立てます。すると、直後の部分から「倒木」の描写が始まることを読み取れるので、ここで問題は、どこまで「倒木」の描写が続くかということになります。そこで、この部分を詳しく読んでみると、三人抱え四人抱えの大きな倒木、縦に並んでいる倒木、苔の生えている倒木、倒木の割れ目に育ちつつある木、倒

木を抱えるようにしてそびえ立つ木について、順番に述べられているのがわかります。このあとに「森はそういう生と死をはらんで大きないのちを生きつづけている。」という一文が続きますが、ここには「倒木」の様子を表す表現が何もないので、この直前までが「倒木」の森の中の様子ということになります。

(3) 適語補充 適語を空所に補うためには、前後の文脈の続き方や直前のことば（修飾語など）、近くにある同じ表現との対応に着目して考えます。

ここでは、字数から、修飾語と接続語を考えることができます。仮に接続語が入るとすると並立・累加あたりの語が可能ですが、本文中に条件にあう語が見当たりません。そこで、修飾語的をしぼってみると、文意は、直前の「何百年かを生きてき」た結果、「朽ちて立っていた」とあるので、「生きて」よりも「朽ちて（＝枯れて腐る）」に重心があることになりました。文脈的には、完全とは言わないまでも、それに近い意味のことばが考えられます。このように空所に入るべきことばを限定してみると、ここには「ほど・ほぼ」などの意の、「朽ち方」を説明することばが入りそうだと推定されます。字数の条件を守りながら、その観点から本文を、空所の近くから遠くへと探すようにします。

(4) 意味をとらえる 「そういう生と死」の中の指示語に着目します。「そういう」が「生と死」に係っている修飾語でもあるので、生と死を含んだ内容が前に書かれている部分を探すという方針をとって考えます。「生と死」という比喩ひゆは抽象的で、そのままでは意味がとりにくいものですが、実際には、本文に書かれていることからの言い換えですから、方針の通りに考えるのがいいでしょう。そこで、方針にしたがって、さかのぼるようにして前の部分を読んでみます。すると、結局、この段落で述べられている、「倒木（＝死）」とそこから生まれている「苔、若木、大木（＝生）」の世代の交代という、森の「いのち」をめぐる構図が「そういう生と死」によって指さされてい

ることがわかります。

(5) **細部をつかむ**

「ほんとうの森」と人工林や日本庭園、公園との違いは「倒木」の有無だと筆者は指摘しています。そして「倒木」があることによつて次の世代の木が育ち、結果として森は全体として「いのち」を生き長らえさせています。そのため、森は、人の心を安らわせる「豊かな時間」が流れる場所となつてきたわけです。ですから、「ほんとうの森」を「ほんとうの森」となさしめている、「森」にそなわつた働きとは、言い換えれば「倒木」の果たしている役割と考えられるはずです。それが書かれている部分を、条件にそつて探しましょう。

(6) **主題をつかむ**

例題Ⅰ(7)の解説で挙げた二項目「話題に着目し、作者・筆者が言おうとしていることを考える」「最もスペースがさかれている話題が何かを読み取る。」を、読解の手がかりにして考えます。くり返し出てくるいくつかのことは「倒木」「豊かな森」「いのち」「豊かな時間」などは、いずれも筆者の考えている自然の「森」についてのテーマと密接に結びついています。

具体的に問題にそつて考える場合、「自然の森に流れているあの豊かな時間」に似た表現が本文全体でくり返されていることに注意します。自然の森は、倒木のある森であり、倒木が次の世代の木を育むことによつて、生と死をはらんだ大きないのちを生きている、というのが筆者の自然の森に対する見方です。この筆者の自然の森の見方を反映した選択肢を選びます。

倒木とそこに育つ新しい命あるものという内容は、(8)でも問われているように、三つの段落におよんでおり、このことが筆者の言いたいことのものであると考えてことができます。

(7) **指小内容をつかむ**

「巨木のこういう死」が指しているのは、巨木の「落雷による不慮の死」という死に方です。それに対して、筆者は「こういう死もあるのだな」と言っているのですから、当然そうではなく、ふつうに

考えられる巨木の死に方があることとなります。本文で述べられているのは

「巨木の自然死」という死に方です。具体的には、段落④に「何百年かを生きてきて、

① 朽ちて立っていた木が、ある日強い風に倒されたのだらう」とあります。この部分を、指定語を使って、短くまとめるようにします。

(8) **段落内容をつかむ**

「生と死がさまざまなかたちを見せている」は抽象的な表現ですが、具体的に本文のことばに置き換えてみれば、「生と死」の「さまざまなかたち」は、自然の森における「倒木」のあり様とそれが育むものを指していることがわかります。こう読み変えてみれば、問題は、倒木のあり様とそこで育つものについて書いてあるのはどの段落か、というものになります。どの段落に書かれているかの判断は、内容を理解した上で考えるならば、キーワードが集中しているか、出てこないかという大まかな判断で間に合うでしょう。

(9) **キーワードをつかむ**

直後の「息づいている」は「生きている」と同じ意味。また「大きな」という修飾語にも注意。同じような修飾語が使われている部分を探すという方針で考えるようにします。

## 文学的文章(1)

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

学習日 月 日

10

5

40

35

30

25

20

15

〈村上しづみ〉「ダッシュュー」よりく

(注) オン・ユア・マークスⅡ「位置について」の意味。この後の、「セット」は「用意」の意味。

□(1) — 線①「そりゃ、美羽留をチームAで走らせたいからでしょ」とありますが、真歩のこうしたもやもやした気持ちが切りかわったことがわかるたとえを用いた表現を、本文中から一文で探し、その最初の五字を書き抜いて答えなさい。


□(2) — 線②「……」とありますが、このときの真歩の様子として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 미래の言い分にはなつとくできないということを、どう伝えようかと迷っている様子。
- イ 勝手なことばかり言われて腹が立ち、 미래の言葉に返事をする気もなくしている様子。
- ウ おかしなことをいう未来を心配し、とにかく落ち着かせようと言葉を探している様子。
- エ 思いもしなかったことを言われておどろき、未来の言葉の意味をよく考えている様子。

--

□(3) — 線③「未来の目を見ることさえできなかった」とありますが、このときの真歩の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア おそろしい    イ もどかしい
- ウ かなしい    エ はずかしい

--

65

60

55

50

45

□(4) ④に入る言葉として最も適切なものを、これより前の本文中から  
 五字で書き抜いて答えなさい。


□(5) —線⑤「どこかうれしそうだ」とありますが、符音はなせうれしそ  
 うにしていたと思われませんか。次の文の□に入ることばを、「ひとり  
 「いっしょ」ということばを必ず用いて、二十字以上二十五字以内（読点  
 も字数に数えます）で書いて答えなさい。  
 〈陸上をやめる前に、□から〉


□(6) ①みらいと②真歩の人物像として最も適切なものをそれぞれ次から選び、  
 記号で答えなさい。

- ア くよくよとなやむところがあるが、やると決めたことには全力をそそ  
 ぐ人物。
- イ 少し自分勝手なところがあり、自分のことだけを自分のペースでやる  
 人物。
- ウ 少し気が弱いところがあるが、しっかりと自分の意見を持っている人  
 物。
- エ おせっかいなところがあり、相手の気持ちを考えず正論だけを主張す  
 る人物。
- オ 口調に少しきついついところがあるが、周りの人をよく見て的確に意見を  
 言える人物。

①
②

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



CAMP

50

45

40

35

30

25

75

70

65

60

55

〈星野道夫「旅をする木」より〉

85

80

□(1) — 線①「もし愛する人がいたら、その美しさやその時の気持ちをどんなふうに伝えるか」とありますが、この質問をした「ある人」は、どのよう

に伝えるのが良いと考えていますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア その美しさをよりよく伝えられるように、自分の絵や言葉の能力を高めることによって伝える。

イ だれにもまねできないような、独特の表現を考え出し、個性的な言葉を使うことによって伝える。

ウ 美しさに感動する経験を通して、自分自身を豊かにしていくことによって伝える。

エ 今まで以上に自然に興味を持ち、その後の人生において自然と触れ合うことを大切にしていくことによって伝える。

□

□(2) — 線②「最初の体験は、小学校の頃、近所の映画館で偶然観たひとつの映画だった」とありますが、「ぼく」は、この体験をどんなことについて最初の体験だと考えていますか。「こと」に続く形で、本文中から十三字で書き抜いて答えなさい。

こと

□(3) — 線③「まだ子どもだったぼくが魅きつけられたのは、その背景に映しだされたどこまでも続く南太平洋の青い広がりだった」とありますが、この映画の映像によって、子どもだった「ぼく」はどんな影響を与えられましたか。次の文の□に入る最も適切なことばを本文中から十二字で書き抜いて答えなさい。

〈ぼく〉は、この映画に□。

□

□(4) — 線④「ぼくが東京で暮らしている同じ瞬間に、同じ日本でヒグマが日々を生き、呼吸をしている……確実にこの今、どこかの山で、一頭のヒグマが倒木を乗り越えながら力強く進んでいる……そのことがどうにも不思議でならなかった」とありますが、「ぼく」のこの気持ちを言いかえて

いることばを本文中から二十四字で探し、その最初と最後の五字を書き抜いて答えなさい。

□

□(5) — 線⑤「これほど近くで眺めたことはない」とありますが、このようなクジラとの距離を、たとえを用いて表していることばを本文中から十九字で探し、その最初と最後の五字を書き抜いて答えなさい。


□ (6) — 線⑥「ぼくたちが毎日を生きている同じ瞬間、もうひとつの時間が、確実に、ゆったりと流れている」とありますが、東京から「ぼく」の旅に参加した友人は、自分が毎日東京で働いているのと同じ瞬間に、どんなことが起きていると知ったのですか。「〜こと。」という形で、二十字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。


□ (7) 本文を通して読み取れる「ぼく」の思いについての説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 子どもの頃にどのように自然と関わったかによって、その人の世界の認識の仕方が変わってくる。

イ 日々の生活とは違う場所にある自然を意識することによって、自分自身の世界観を広げることができる。

ウ 現代人はもともと星を見たり自然に触れたりして、自然のすばらしさを身近に感じるようにするべきだ。

エ 自然の動物たちのおおらかで力強い姿を見ることで、人間はなぐさめられたり、勇気づけられたりするものだ。

1 次のそれぞれの文の——線部の漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字で書いて答えなさい。

□ (1) 空に虹が出た。

□ (2) 観客席から声援が聞こえる。

□ (3) 渡来人から伝わった文化。

□ (4) 高く跳躍する。

□ (5) 第一線から退く。

□ (6) 体を鍛える。

□ (7) 雄大な風景に圧倒される。

□ (8) 一瞬の出来事。

□ (9) 暗号の解読を試みる。

□ (10) ミスをしてもダイジョウブだ。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



- (11) 失敗をオソれる。
- (12) 鉄の扉をオす。
- (13) 目的地へイドウする。
- (14) 昨日からウデが痛い。
- (15) 大会に新しいキョウギが追加される。
- (16) 味のチガイが分かるようになる。
- (17) ユウグレの風景。
- (18) 動物のホンノウ。
- (19) チシキをたくわえる。
- (20) クジラのムレ。
- (21) 楽しい時間をキョウユウする。
- (22) 忙しくハタラク。
- (23) ケツキヨク、何も言えなかった。

Blank boxes for writing answers to the first set of questions.

**2** 次のそれぞれの語句を用いて、短文を作成しなさい。語形が変化するものは自由に變化させてかまいません。

- (1) 「頼もしい」
  - (2) 「おそらく」
  - (3) 「ふと」
  - (4) 「じっと」
  - (5) 「引き締まる」
  - (6) 「しなやか」
  - (7) 「〜どころか」
- Blank boxes for writing answers to the second set of questions.